

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.227 2020.3.1

## 松本の春、見つけた! 2020

【会期】3月1日(日)～4月5日(日)



松本地方では、月遅れの4月3日にひな祭りを祝います。

かつて、松本地方でのお雛様といえば、紙の台紙に綿を置き、布で包んだ顔や着物を貼った松本押絵雛を、竹串で台座などに刺して飾ったものでした。

市立博物館・はかり資料館・馬場家住宅では、昔ながらの押絵雛が、松本の春を感じさせてくれます。ぜひ博物館で体験してください!!



市立博物館



はかり資料館



馬場家住宅

※写真は2019年のものです



押絵雛を見る子どもたち(馬場家住宅)

甘酒サービス  
(馬場家住宅)

松本市立博物館 「月遅れのひな祭り展」

はかり資料館 「町屋で楽しむひな祭り」

馬場家住宅 「古民家で楽しむひな祭り」

### もくじ

- 誌上博物館 ◇ 松本平の御柱と上伊那の大文字  
—よく似た柱立て行事— ..... 2
- ガイドコーナー ◇ はんでんぼく ..... 4

美しく生きる。  
健康寿命延伸都市・松本

# 松本平の御柱と上伊那の大文字 —よく似た柱立て行事—

## はじめに

馬場家住宅では、例年1月を中心とした時期に「松本平の御柱」と題した企画展を開催しています。これまでは、松本平の3市（松本市・塩尻市・安曇野市）域で正月から小正月にかけて行われる道祖神の祭りといわれる柱立て行事を紹介してきました。しかし類似した行事は松本平以外でも行われていて、令和元年度からは上伊那の「大文字（でえもんじ）」も紹介しています。

本稿では、私が調査した松本平での御柱と上伊那の大文字を比較しながら、主にその形態の違いなどについて紹介したいと思います。

## 1 松本平の御柱の形態（東山を中心に）

松本平と一口で言っても、現在御柱の行事が行われているのは、大きくは松本市と塩尻市にまたがる南北内田地区を中心とした東山麓と、安曇野市穂高柏原から松本市波田上波田までの広範囲にわたる西山麓の二つに分けることができます。

『片丘村誌』（1985）によればかつては東山でも旧片丘村全体で行われていたようですが、現在は旧村域のうち南北内田地区になっています。また西山でも安曇野市三郷地区北小倉の1か所（中区）が、今年から立てられなくなってしまっており、行事を伝承する難しさを感じます。

次にその形態について紹介します。そもそも御柱は一つとして同じものではなく、かつ東山と西山では大きく形態が異なります。そこでここでは東山の御柱を中心に触れていきます。上の写真のように、最上部を松や竹などで飾った芯柱を立て、そりに梯子状あるいは格子状になるようにオンベと呼ばれる五色の紙で飾った竹の棒を取り付けます。またヤナギなどと呼ばれる細く割った竹に紙を飾り付けたものを地上少し上などに取り付けます。オンベは綱で固定され、そこにもシデと呼ばれる紙飾りなどを取り付けた華やかなものです。西山のものの中には東山のようなオンベ飾りが無いものもありますが、竹棒などを芯柱に梯子状に取り付けた様子は、外観的には東山のものに類似



内田地区荒井の御柱

していると言えます。

次に飾りについて見てみます。主なものはオンベとヤナギなどと呼ばれるもので、東山の例ではオンベは丸い竹、ヤナギなどは細く割った竹で、竹の太さや五色の紙の切り方・取り付け方などが地区によって細かい違いはあるものの、概ね似た作りとなっています。

## 2 上伊那の大文字の形態

現在行われているのは、辰野町8か所・箕輪町2か所・伊那市1か所の計11か所といわれています（各市村教委確認）。かつては他地域でも行われており、『上伊那誌 民俗篇上』（1980）や伊那市西箕輪公民館などによれば、辰野町上辰野や

伊那市美篤、さらに諏訪地方の茅野市などでも事例がありました。

大文字という名称については諸説あるので不明な点も多いのですが、『伊那市内の民俗芸能（無形文化財）の記録第十集』（2005）によれば、大きな文字で「道祖神」などと書くので、大文字が転じて「でえもんじ」となったなどの説が紹介されています。



箕輪町大出上村の大文字

上伊那郡北部で見られる大文字は、箕輪町北小河内漆戸のものを除いて全て天竜川西側にあります。ここでは天竜川西側のものを中心にその特徴について触れていきます。

まず芯柱は木と竹がほぼ半数に分かれます。すべてにおいて松本平のようなオンベは取り付けられておらず、箕輪町や伊那市では、取り付け方の違いはあるものの芯柱には松の枝などが取り付けられています。

先端部は辰野町のものはすべて竹であり、併せて御幣が取り付けられます。箕輪町のは太陽を表した赤い円形の飾りで、安曇野市三郷地区などでの日天に似ています。また、辰野町・箕輪町の一部、伊那市では右の写真のように「道祖神」などと大書された飾り箱が特徴です。そのため先述の「大文字」に



道祖神と書かれた伊那市西箕輪上戸大文字の飾り箱



なったという説になっているようです。

次に飾り物について見てみます。松本平でのヤナギに似た飾り物がありますが、取り付け方は異なり、例えば伊那市ではまとめて先端近くに取り付けられるなど様々です。紙の飾り物は、巾着が多く見られます。

辰野町羽場のものは竹の芯柱に扇子や紙の飾りを取り付けたもので、一見すると七夕の笹飾りのようです。

また辰野町の特徴的な飾りの一つとして、右の写真のように、細く割った長い竹に紙の飾りなどを付けたものを数多く作り、放射状に垂れ下がるように取り付けたものがいくつか見られます。このような飾りは、『長野県史民俗編第二巻（2）南信地方』（1988）によれば先述の茅野市でも少なくとも昭和の終り頃には行われていたことがわかっています。

このように、一口に「大文字」と言っても、飾り箱などいくつかの共通点がありますが、全体としては全て形が異なるといえます。

### 3 共通点と、道祖神との関わり

では、この御柱と大文字、二つの行事の共通点とは何でしょうか。簡単にまとめてみます。

タイトルにもしたとおり、柱を立てる行事であることが挙げられます。立てる場所も、その多くが道祖神の脇であり、立てる前には道祖神への飾り付けなどを行っている他、安曇野市三郷地区や上伊那では、「道祖神」という大書した飾り物が見られます。ただし実際調査してみると、「毎年やっているから」という回答がほとんどで、道祖神との関わりについてはどこまで意識しているのかは不明です。

飾り物についても共通する点が多くあります。



辰野町羽場上の辻の大文字



辰野町北大出多屋小路の大文字

特に松本平でヤナギなどと呼ぶものは、前述したように細く切った竹に紙を巻き付けたものですが、これは松本平、上伊那で共通して多くの場所で見られます。ただし、名称や取り付け方はそれぞれ違っています。

次に上部の飾りについて、箕輪町のもので見られるような最上部の赤い丸型の飾りは、太陽を表しているということで、下の写真のとおり松本平西山、安曇野市三郷地区の日天に類似しています。



上部の太陽を表した飾り

左から箕輪町北小河内漆戸大文字、安曇野市三郷一日市場東村・同三郷北小倉上区御柱

巾着については、伊那市などでは針仕事の上達を祈るものだとされており、これは松本市波田上波田などでの事例と共通しています。

また飾り物の持ち帰りについても共通しています。いずれも倒した後に各戸で持ち帰って魔除けにして、古い飾り物を三九郎（松本平）やどんど焼き（伊那市など）で焼いています。

### おわりに

調査してみると、写真ではわからないことが多いことを再認識させられ、また行事を見ていくと、伝承を受け継いでいる人たちの苦勞と力強さを感じることができます。

また、共通点や相違点についても、興味深いことがわかってきました。上述のとおり松本平東山でのヤナギ或いはソバという飾りに似たものは上伊那でも見られ、また辰野町での放射状の細い竹飾り（左上写真）は、ヤナギの飾り付けが変化した（あるいはその逆）のではないかという印象を受けました。

伊那市では、「近年「休日に合わせよう」という意見もあったが、伝統を守りたいという意見が強く、現在も続いている」という話を聞きました。

今回は、主に形態について触れてきましたが、まだまだわからない点が多いこの二つの行事、今後も追っていききたいと思います。

（馬場家住宅学芸員 / 澤柳秀利）

松本民芸館から

☎0263-33-1569

企画展「民芸のはじまり 丸山太郎が愛した朝鮮の美」

松本民芸館の創館者丸山太郎が愛した、朝鮮の木工品ややきもの、金工・石工品などおよそ120点を展示します。

会 期 3月17日(火)～7月12日(日)

会 場 松本民芸館

料 金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

八十二ウインドーギャラリー展「松本民芸館の魅力」

ポスターから見る松本民芸館企画展の流れとその収蔵品の一部を展示予定です。

会 期 4月22日(水)～6月3日(水)

会 場 八十二銀行ウインドーギャラリー

問 合 せ 松本民芸館へ

旧制高等学校記念館から

☎0263-35-6226

企画展「松高人名録(その二)」

信州大学日本文学分野・信州大学大学史資料センターとの連携企画展です。松本高等学校の卒業生十数名を選び、在学中・卒業後のエピソードなどを付したプロフィールをパネルにして紹介します。今年は諏訪彰などの卒業生に加え、蛭川幸茂など松本高等学校教授の資料も展示しています。

会 期 3月7日(土)～5月6日(水・祝)

会 場 旧制高等学校記念館1階ギャラリー

料 金 無料(常設展は通常観覧料:大人310円、中学生以下無料)

問 合 せ 旧制高等学校記念館へ

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

「松本の子どもの短歌・2019」 入賞作品展

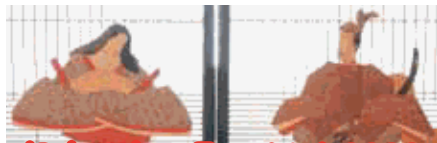
「松本の子どもの短歌・2019」の作品展です。市内の小中学校から応募いただいた6,143首の中から、最優秀賞・優秀賞・空穂会賞に入賞した作品を紹介します。

会 期 3月14日(土)～4月12日(日)

会 場 窪田空穂記念館

料 金 作品展無料(常設展は通常観覧料:大人310円、中学生以下無料)

問 合 せ 窪田空穂記念館へ



松本の春、見つけた!-2020

会期 3月1日(日)～4月5日(日)

松本市立博物館 ☎32-0133 / はかり資料館 ☎36-1191 / 馬場家住宅 ☎85-5070 問合は各館まで

松本地方では、月遅れの4月3日にひな祭りを祝う風習があります。月遅れのひな祭りにあわせて、博物館が所蔵する松本押絵雛などのひな人形を展示します。

月遅れのひな祭り展

会 場 市立博物館 1階ロビー

料 金 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

押絵雛展「町屋で楽しむひな祭り」

会 場 はかり資料館 第1展示室・お休み処

料 金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)

押絵雛展「古民家で楽しむひな祭り」

会 場 馬場家住宅

料 金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

甘酒サービス

ひな祭りに合わせ、来館者に甘酒を提供します。

日 時 4月3日(金) 午前9時30分～なくなり次第終了

会 場 馬場家住宅

歴史の里から

☎0263-47-4515

松本てまり体験講座

1号まり程度(直径約8.5cm)の大きさの「松本てまり」に模様を付けます。

日 時 3月21日(土) 午前10時～午後3時頃(お昼を挟んでの講座となります)

料 金 1,200円

定 員 10名(先着順) ※初めて参加される方優先

対 象 中学生以上

講 師 鈴木智恵子氏

持ち物 昼食、裁縫道具(まち針・糸切りばさみ)

申 込 み 3月5日(木) 午前9時から電話にて受付開始

「模型で見る歴史的建造物」

歴史の里に寄贈された工女宿宝来屋等の模型製作者の方が、これまでに制作した建造物の模型を集め、展示します。

会 期 4月21日(火)～6月28日(日)

会 場 歴史の里 展示・休憩棟

料 金 通常観覧料(大人410円、中学生以下無料)

問 合 せ 歴史の里へ

時計博物館から

☎0263-36-0969

古時計ネジ巻き見学会

普段は見ることができない開館前に時計技師が行っている古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

日 時 3月14日(土)・15日(日) 各日午前9時～10時

会 場 時計博物館常設展示室

料 金 通常観覧料(大人310円、小・中学生150円)

問 合 せ 時計博物館へ

山と自然博物館から

☎0263-38-0012

特別展「信州の蝶とその多様性」

全国で最も種類が多いと言われている長野県の蝶について、松本市にお住まいだった蝶類研究家浜柴一氏の標本を用いて展示・解説します。また、浜氏の点描画や研究・活動について展示します。

会 期 3月31日(火)～9月27日(日)まで

会 場 山と自然博物館2階常設展示室

料 金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

問 合 せ 山と自然博物館へ

あとがき

暖冬とはいえ、寒い冬が過ぎると気分も明るくなるはずなのですが、今年は新型コロナウイルス発生のためか、皆浮かない顔をしています。

目に見えない「モノ」を恐れ、神仏にすがるといった気持ちは、昔も今も変わりません。科学技術がすべてを解決できるわけではない、ということを感じています。(H. S.)

あなたと博物館 No.227

発行年月日/令和2年3月1日

編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <http://www.matsu-haku.com/>

e-mail: [mcmuse@city.matsumoto.lg.jp](mailto:mcmuse@city.matsumoto.lg.jp)



印刷 川越印刷株式会社